

## 【卒業生 学術活動報告】

理学療法士学科夜間部 6 期生（2010 年 3 月卒業） 川原田 進さん

### No.1. 学会発表(口述)

演題名： コース活動（プロジェクト型学習）が学生の学習意欲に与えた影響

発表年月日： 2025 年 2 月 23 日

学会名： 第 64 回 近畿理学療法学会

### 概要

本校大阪医療福祉専門学校理学療法士学科昼間部は 2023 年度より 3 年生課程（以下：3 年制）から 4 年生課程（以下：4 年制）に変更となり、それに伴いコース活動として地域課題の解決に取り組むプロジェクト型学習を 1 年次から取り入れた。今回、3 年制と 4 年制の学生の 1 年から 2 年次の学業の充実度の変化を本校キャリアサポートアンケート（以下：CSA）を用いて比較し、変化のあった小分類項目から変化に対する要因を検討した。

### 方法

調査 1) CSA の結果をもとに、3 年制学生と 4 年制学生の小分類評価項目（20 項目）の 1~2 年次の変化を比較した。統計学的処理は EZR (Ver60.2.4) ソフトにて Wilcoxon の順位和検定により各小分類評価項目において 1 年次と 2 年次の差を分析した。

調査 2) 1 年次と 2 年次において有意差のあった小分類評価項目において、変化のあった要因を自由記載にて学生個々にアンケート調査を行った。

### 結果

両群ともに学習意欲の低下が認められた。3 年制では将来の明確性において有意な低下が認められた（3 年制：1 年次  $49.8 \pm 9.9$  2 年次  $46.1 \pm 9.1$   $p < 0.05$ 、4 年制：1 年次  $51.1 \pm 9$  2 年次  $45.8 \pm 11.5$   $p < 0.01$ ）。また、1 年次と 2 年次の変化数（ $\Delta$  値）を 3 年制と 4 年制の平均値で比較した結果、将来の明確性のみ有意な上昇を認めた（3 年制： $-3.17 \pm 7.4$  4 年制： $0.90 \pm 8.7$ ）。その要因を自由記載でアンケート調査した結果、コース活動が要因とした回答が将来の明確性で 59.0%であった。

### 結論

両群で学習意欲の低下が認められた。和田らによると、理学療法士養成 4 年制大学において進級とともに学習意欲の低下が報告されている。これは入学前後の学校生活・職業に対するイメージの乖離、これに伴う意欲の軽薄化が影響したとしており、今回も両群とも同様の結果となった。4 年制で将来の明確性において有意な低下が認められなかったことについては、コース活動が影響を及ぼしたのではないかと推測する。要因のアンケート調査では、全ての項目でコース活動が半数以上を占めていた。中野らは専門性追求が学校適応感を高める要因と述べており、コース活動により興味分野を現場で学ぶことで専門性の追求が実現できていると考える。また、進路選択自己効力感を高めるには遂行体験が重要と竹内ら、山田

らは述べている。このことから、自身で興味分野を選択し実際に学外で学ぶことで自己効力感を高めることができたと考える。

### **倫理的配慮**

本研究は、大阪医療福祉専門学校の倫理委員会の承認を得て実施した。アンケート調査に参加した学生には、研究の目的と方法について十分な説明を行い、同意を得た上で回答を依頼した。個人情報の保護には十分に配慮し、データは匿名化して解析を行った。

<https://kwcs.jp/kinkipt64/>